

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	えりも町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	文化振興事業、 <b>地域・産業振興事業</b> 、 <b>コミュニティ活動支援事業</b>
3 事業の目的	アイヌの伝統文化や歴史の保存・継承を図るとともに、アイヌの人々と地域住民との交流の場を整備することで、アイヌの人々が誇りをもって生活できる町の実現を目指す。
4 事業の概要	<p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>猿留山道を歩く会</p> <p>○事業実施主体 北海道 えりも町</p> <p>○事業の実施場所 えりも町 庶野地区～目黒地区</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日から令和6年3月まで</p> <p>○事業の内容と考え方 当町、庶野地区から目黒地区の間にある猿留山道は、江戸時代・寛政11年(1799年)に、幕府が蝦夷地に初めて開削した官製道路の一つであり、平成30年2月には国史跡に指定されている。江戸時代の絵図には、アイヌが函館奉行の一行を先導し、荷馬を曳く描写がある。また、猿留山道の途中、沼見峠からはアイヌが「カムイトウ(神・湖)」と呼んだ豊似湖を眺望できる。北海道の名付け親といわれる松浦武四郎もアイヌの案内を受け、猿留山道を通り、調査している。猿留山道は、江戸時代の和人とアイヌを学ぶ場といえることから、アイヌ語地名と地形を学ぶ散策、及び学習交流会を開催する。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>生活館改修・整備事業</p> <p>○事業実施主体 北海道 えりも町</p> <p>○事業の実施場所 ・歌別生活館 えりも町字歌別 252 番地 ・東洋生活館</p>

	<p>えりも町字東洋 213 番地 1</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日から令和 6 年 3 月まで</p> <p>○事業の内容と考え方 アイヌの人々や地域の方が安心して利用し、交流できる施設にするため、各生活館の使用に支障を来している設備の修繕を行い、地域のコミュニティ活動促進に寄与する。</p>
<p>5 アイヌ施策推進 地域計画における 記載</p>	<p>4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業 アイヌの歴史や文化を学ぶため、アイヌと関りのある山道を散策し、併せて学習交流会を行う。</p> <p>4-4 地域若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 アイヌの人々や地域の方が安心して利用し、交流できる施設にするため、老朽化が著しい各生活館の改修・整備を行う。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 成果目標の達成 に向けた工程</p>	<p>(2) 地域・産業振興事業 猿留山道を歩く会 アイヌと関りのある山道を散策し、学習交流会を行うことで、広く町内外の人々がアイヌ文化や歴史を学ぶ機会が増えると考えられる。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業 生活館改修・整備事業 各生活館の改修・整備を行うことで、施設の老朽化を改善し、アイヌの人々の利用や、地域の人々との交流の機会も増えると考えられる。</p>
<p>(2) 成果目標、(中 間) 目標年度(成 果目標に対する現 状、及び成果目標 の達成見込みにつ いて記載すること)</p>	<p>(2) 地域・産業振興事業 猿留山道を歩く会参加者 (現状値) 令和 3 年度 - 人/年間 (中間目標) 令和 4 年度 60 人/年間 (最終目標) 令和 6 年度 70 人/年間</p>

	<p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>生活館利用者</p> <p>(現 状 値) 令和 3 年度 1,000 人／年間</p> <p>(中間目標) 令和 4 年度 1,100 人／年間</p> <p>(最終目標) 令和 6 年度 1,200 人／年間</p>
(3)成果目標の確認方法	K P I である、猿留山道を歩く会参加者数、生活館利用者数について実績値を公表する。また、目標の達成状況等については、えりもアイヌ協会と協議の場を設け検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。
7 地域の概要	
(1)地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	<p>えりも町は北海道中央部、日高山脈の南端に位置し、町内各地域の地名から岩礁の呼び方に至るまでアイヌ語に由来し、現在の暮らしにもアイヌ文化が活かされている。</p> <p>特に代表的なものが、えりも町の最南端にある「襟裳岬」で、その語源はアイヌ語のオンネエンルムであり、「オンネ」は「大老の、大きい」、「エンルム」は「突き出たところ、岬」を意味し、町名である「えりも」の由来にもなっている。</p> <p>また、アイヌ民族の長であったシャクシャインはえりも町油駒（東洋地区）の出身であったという伝承や、江戸時代には幕府の役人や、北海道の名付け親といわれる松浦武四郎がアイヌの道案内を受けて、猿留山道（庶野～目黒地区）を通過、調査したという資料も残っており、歴史的にもアイヌとの関りが深い地域である。</p> <p>こうした背景のもと、当町のアイヌ協会では、アイヌの伝統文化や歴史の保存・継承のための活動や古式舞踊、アイヌ語の習得研修等の事業を展開しているが、近年は伝承者の高齢化や担い手不足により、次世代への引継ぎが課題となっている。</p> <p>また、アイヌと地域の方との交流の場である生活館においても、経年劣化が著しく、改修の要望が多くなってきていることから、えりもに住む人々がアイヌ文化と深く関わり、アイヌの方々が誇りをもって生活できるよう、環境整備を進める必要がある。</p>
(2)施設等の管理運営体制	生活館はえりも町が管理している。
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	えりもアイヌ協会と定期的に意見交換を行っている。